



社会福祉法人江東楓の会 編集責任者 理事長 伊藤 善彦

発行所 江東区東陽 4-8-10 西本ビル 202 TEL 5617-3750 FAX 5617-3752

理事あいさつ

社会福祉法人江東楓の会 理事 原 隆典

春分の候、皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は当法人の運営にご理解ならびにご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和6年を迎え、新たな年に期待を膨らませているところで、能登半島沖における地震と津波により大きな被害を受けたことは皆様にとっても大きな衝撃を受けたことと存じま
す。被災された皆様、ならびにそのご家族の皆様にお見舞い申し上げますとともに、
皆様の安全と被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

当法人につきましても、微力ながら職員と協力し義援金を送らせていただきました。

また、この事態を受けて、改めて災害が時と場所を選ばないことにも直面いたしました。各事業所においても業務継続計画の立案やそれに基づいたシミュレーションなどを進
めていますが、重要となる情報共有方法や通信手段等についても踏み込んで考えていく必
要があると強く感じました。

障害者福祉においては、この4月より3年に1度の報酬改定の検討が進められておりま
す。これまでに引き続き虐待防止の更なる推進や身体拘束の適正化が挙げられているとと
もに、地域における生活を推進していく内容となっております。併せて社会資源や人材の
不足などの課題もあるため、それらの課題と向き合いながら、よりよい運営体制を構築し
ていきたいと考えております。

今後ともよろしくお願いいたします。



「今年度を振り返って」

高齢障害者通所施設さくら 支援員 瀬尾 かおる

さくらこんとねで「ラッキーボーイ網野」(前々号参照)が誕生して記憶に新しい(?)方もいると思いますが、それから早1年が経とうとしています。

私の勤務していた、さくらこんとねは、多くの方々にご愛顧頂きましたが、令和5年9月末に惜しまれつつ閉所致しました。令和5年度がスタートし9月末までの半年間、分室の利用者は忙しくパン作りに取り組みながらも、これから迎える環境の変化に不安もあったと思います。しかし、利用者はその変化に柔軟に対応し、法人内外を問わず幾つかの事業所の見学や実習を経て、今や新天地で各々やりがいを持ち日々を送っています。

かくゆう私も、閉所や配置転換など変化に富んだ貴重な経験をした一年でもありました。そのおかげで慌ただしかった中でも、自らのことを振り返る機会も多かったように思います。

人は年齢を重ねていく中で何度も様々な環境の変化が訪れます。そんな時、私は、器用なタイプではないため悩んだり失敗することも多く、慣れるまでに何かと時間がかかります。そんな時こそ考えを巡らせ、失敗も笑いのネタにしつつ、周りに支えられていることを実感しながら、少しずつでも前に進んでいる気がします。そんなことを色々と改めて感じる事が出来た気付きや学びの多い一年でした。

次年度は塩浜福祉プラザへの再引っ越しも控えています。落ち着く暇もない一年になりそうですが、私自身の中の「変えない」芯を持ちながらも「変わること」を成長出来るチャンスだと楽しもうと思います。そうすることで次年度の今頃もまた、やり切ったなあと思える自分になれるはずです。



「今年度を振り返って」

江東区リバーハウス東砂

支援員 和泉 佑佳

今年度はグループホームのご利用者が数名入れ替わり、新しい場所へ移行された方や新しく入所された方がいらっしゃいました。メンバーの入れ替わりに伴い寮内の雰囲気は少し変わり、ご利用者の皆様にとっては大きな変化だったのではないかと思います。ですが、様々な変化を感じながらも皆様とても楽しそうに過ごされています。

新しく入所された方にとっては、慣れない事ばかりで不安な事もあったかと思いますが。しかし、イベントを通して他のご利用者や仲良くなり、日々の寮生活でも一緒に遊んで楽しそうに過ごされている場面を度々見かけるようになりました。

イベントが親睦を深める良い機会となったことを嬉しく思うとともに、イベントで交流することの大切さを改めて感じました。

交流といえば、グループホームと短期入所のご利用者が同じリビングで過ごされることもあるのですが、その際にはお互いに興味津々で見つめ合い笑い合っている事も！新規の短期利用者様が増えて交流の機会が増えたことも、皆さんの楽しみや興味に繋がっているようです。

今後も様々なイベントや交流を通して、皆さんが楽しく過ごせるような、関係作りのきっかけとなるような、そんな機会を作っていきたいと思います。



「今年度を振り返って」

グループホームかえで

管理者 仲俣 圭

今年度振り返って見てみると、ここ数年にわたるコロナ禍も一段落し、少しずつ元の生活に戻っていったことが挙げられるかと思えます。グループホームかえでとしては、久しぶりに外出行事を行ったことが変わった点のひとつと思えます。

令和6年1月1日に全体行事として、門前仲町の富岡八幡宮への初詣に行きました。天候に恵まれ、少し風が強かったですが暖かな一日でした。普段は別のユニットの利用者と関わる事もあまりないので、交流が深まるよい機会になったと思えます。また年末年始をグループホームで過ごす利用者にとっては、こうした行事もそれなりに刺激のあるもののように、楽しそうな笑顔が見られました。その他にもユニット毎で誕生日やクリスマスの際に外食イベントを催しました。グループホームの生活は単調になりがちです。なので“いつもの生活とは異なるイベント”は生活に潤いを与えるなど、改めて実感しました。

グループホームかえでは今年度（令和5年度）は3年毎の第三者評価受審の年度になります。ある意味3年間の振り返りをする事になります。グループホームかえでの今の状態をしっかり受け止め、さらに来年度以降も安心・安全な支援を安定して提供できるよう、職員一同取り組んでいきたいと思えます。



「今年度を振り返って」

江東区亀戸福祉園

支援員 木村 桃子

江東楓の会に入ってから3年が経ちました。入社当初は、コロナ禍ということもあり、制限のある中、利用者の方の支援を行ってききましたが、少しずつ日常が戻って、今まで出来なかったことも出来るようになりました。そんな中で、改めて新任の時のような緊張や、不安を抱えながら過ごす1年間だったように思えます。

「園内で宿泊するってどういう感じなのだろう」「遠方に外出する時はどうしたらいいのだろう」「利用者の方と外に出るのは不安だな」「外部の方を呼んだ行事ってどのような感じなのだろう」と、色々なことに悩みながら、行事や活動を利用者の皆さんに提供していました。未だに慣れないことも多く、不安で緊張する中で、新たな心配事や悩みを抱えながら働くことは、正直言うと、「大変だな」と思ったことも少なくありません。それでも、利用者の方の嬉しそうな顔や、「楽しかった!」と笑う顔を見ると、「やってよかったな」「これで良かったのだな」と私自身も嬉しくなり、また1つ成長出来たように感じました。

今後も、今まで出来なかった経験をする機会が増え、出来たという達成感と共に、不安や緊張を抱えることも増えてくるでしょう。そんな中でも、人の笑顔や楽しいという気持ちをつくりだせるような存在になりたいと思っています。

「今年度を振り返って」

第三あすなろ作業所

支援員 片桐 湖生

今年度を振り返ると「行事復活！」の一年でした。

第三では、5月にサン3フェスティバル、6月にバスハイク、9月に宿泊旅行、12月に福祉大会、2月に作品展に参加し、その間には、クラブ活動、小グループ外出もありました。

宿泊旅行やクラブ活動、小グループ外出では、利用者の方に「どこへ行きたいか」「何をしたいか」などアンケートや話し合う時間をつくり、皆で楽しめる内容を考えました。宿泊旅行に関しては、4年ぶりの計画だったため、「楽しみだね」「カラオケ大会はあるのかな？」などなど…利用者の方からたくさんの楽しみにしている言葉が聞け、担当として準備を頑張ろう！と思う反面、皆が楽しめる内容とは…？と、職員や旅行会社の方と相談し、計画をたてました。たくさん食べて、食べて、食べて…の内容で、食べ過ぎ?!な内容でしたが、利用者の方の楽しんでいる姿が見られて、ほっとしました(^)

話は変わり、年度途中で職員が1名欠員になり、正直「大丈夫かな…？」と色々心配になりましたが、職員全員で協力し、乗り越えてきました。うまく言葉には表せられないのですが、「支え合う」とは、こういうことなのかな…と感じました。次年度も新しい体制で始まります。皆さんで支え合いながら、協力しながら、やっていければと思います。



「3つの変化」

楓の会ヘルパーセンター サービス提供責任者 武田 俊彦

今年度を振り返ってみると、いろいろな出来事があったことを思い出しました。

まず、江東区塩浜に入所施設がオープンしました。ヘルパーセンターの利用者も多く入所し、契約終了となりました。入所による契約終了は常に起こり得ることですが、一気に減ることはなかったので、気持ちが落ち着きませんでした。しかし、その空いたシフトも、新規の依頼が次々と入り、ほどなく新しい支援風景が見られるようになりました。

次に、ヘルパー2名が新たに加わってくれました。ヘルパーから支援に関する質問を受けながら、自分たちが大切にしていることを改めて確認しています。やりがいをもって、長く続けられるよう、事業所としてフォローしていきたいと思います。

そして、最後になりますが、事業所が東砂から東陽町へ移転しました。それも区役所の目の前。窓の外を見ると、区役所しか目に入りません。江東区で働いていることを痛感します。東西南北どのエリアにもアクセスが良いこの場所から、多くの支援を行い、利用者の生活向上に少しでも貢献できればと思います。

新年度もよろしく願いいたします。

「いま、何のために働いているのか。ふと考えてみた」

ワークセンターつばさ

支援員 荒木 智帆

つばさに入職して1年がたちました。この1年を一言で表すと本当に楽しく幸せな1年でした。私は、人と話すことがとても好きで、人と話すことがストレス発散にもなっているのですが、大学4年間のうち3年間はコロナ禍で、人と話す機会が激減してしまいました。自宅で一人でオンライン授業を受け、友達にも会えずサークルも思うようにできない日々が続き本当に辛かったです。そのような日々が重なり、自分は誰にも必要とされていないんじゃないか、自分の居場所はどこにも無いんじゃないかと思うことも多くありました。

しかし、昨年4月からのつばさでの日々は大学生活とは対照的で、オンラインではなく毎日通う場所があり、利用者さんが毎日かわるがわる嬉しそうに話しかけに来てくれて、利用者さんが私の居場所を作ってくれているように感じます。

よく聞くような入職前と入職後のギャップのようなものも無く、新卒1年目でつばさに来られて本当に良かったなあとと思っています。来年度も様々なことを学び、感謝の気持ちを忘れず日々過ごしていけたらと思います。



「今年度を振り返って」

江東区あすなろ作業所

支援員 伊藤 可南子

あすなろ作業所は今年度、皆様のご協力のもと4年ぶりに宿泊旅行とレインボーフェスタを行なうことができました。利用者さんもとても楽しみにされており、大盛り上がりの一日になりました。「来年も楽しみ」と喜んでいただき、職員も次年度の活動に向けて張り切っています。

日々の作業では、新規作業を積極的に取り組んでいます。布の端切れから可愛いリボンを作る作業や刺繍作業、プリントTシャツの作成など幅広い作業を取り扱っています。中でもTシャツの作業では、希望のイラストを印刷することができます。ぜひ、あすなろ作業所で世界に一枚だけのオリジナルTシャツを作ってみてはいかがでしょうか。また、るくるでは四季折々の葉や、一針一針丁寧に仕上げた雑巾など、真心こめた商品を沢山販売しております。これからも利用者さんと職員が一丸となり、様々な作業や活動を通して地域に貢献していきます。今後のあすなろ作業所の活躍に乞うご期待！



「コロナが落ち着いて」

若竹作業所

支援員 森谷 和奈

新型コロナウイルスの制限が緩和された今年度は、宿泊旅行や公共交通機関を使っでの外出行事を再開することができました。

4年半ぶりの宿泊旅行では、普段よりも長い時間を利用者と一緒に過ごすため、出発前までは非常に緊張していたのを覚えています。しかし、実際に参加すると、宴会ではカラオケや晩酌を楽しむ利用者の姿や、部屋で過ごされている時間や入浴の際に普段の生活の様子を垣間見ることができ、いつの間にか最初の緊張はすぐに吹き飛び、私自身も楽しんで参加していました。

また、公共交通機関を利用した外出行事を初めて経験しました。昨年度までは、社用車を使用した外出だったため、電車の乗り換えや駅構内の移動の大変さを初めて感じました。また支援員1名での小グループ外出も企画し、時間や移動方法を確認しながら進めていくため、一層の緊張感を感じながら参加しました。モノレールに乗って楽しげな反応を見た際に、公共交通機関を使用した外出の特別感を利用者と共に感じることができました。

コロナ禍の昨年度よりも行事の幅が広がり、新しい経験を積むことのできた1年でした。行事は普段見えていない部分に触れられる機会でもあり、利用者のモチベーションにも繋がっていると改めて感じました。作業だけでなく、行事でも若竹作業所を盛り上げていきたいと思っています。

令和5年度 後援会会員名簿

<賛助会員> (第53号からつづく)

網野 開斗	佐藤 充宏	鷹木 清光
大野 誉仁	神内 梓	中村 恵一郎
輿水 康弘	瀬尾 かおる	日暮 恵子

(敬称略、順不同)

(なお、令和6年2月19日以降 賛助会員は次号につづく)

編集後記

会員の皆様には、日頃から当法人の運営に際し、多大なるご協力とご理解を賜りありがとうございます。今回の会報誌『かえで』は、振り返りをテーマに掲載しております。

振り返ると、(もっとうすればよかったなあ)と自分を責めたり、悲しい気持ちになったりすること、ありますよね。次の一歩が踏み出しにくくなることも…。原稿の作成期間中、私が通っている習い事先の先生が、こんな言葉を教えてくれました。感銘を受けた一言だったので、皆様にもお伝えさせていただきたい!

「チャレンジは、成功か大成功しかない」

皆様にとって、令和6年度もうきうきするような一年でありますように…

